

EU Indicators

発表日:2019年1月23日(水)

欧州経済指標コメント:1月ドイツZEW景況感

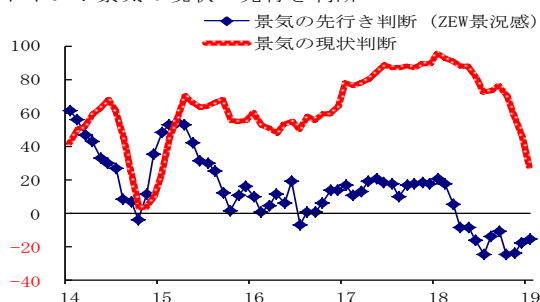
～分水嶺に近づくドイツ景気～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

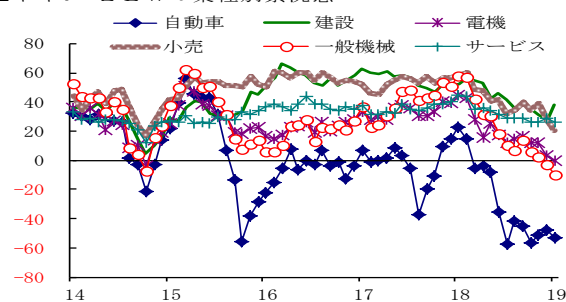
- 22日に発表された1月のドイツZEW景況感（金融市場関係者の6ヶ月先の景況判断）は▲15.0と10ヶ月連続で「悪化する」との回答が「改善する」との回答を上回ったが、昨年10月をピークにマイナス幅が3ヶ月連続で縮小した。30～40台のマイナス幅が定着、ボトム時に50～60台のマイナスを記録した2008-09年の金融危機時や2011-12年の欧州債務危機時に比べると、景況悪化は今のところ限定的。今月の調査対象時期は1月14～21日。昨年末にかけての株価調整が一服し、やや反転上昇した局面と重なったことが、調査対象者の業況下支えに寄与した可能性がある。
- 同時に発表された景気の現状判断は+27.6とプラス圏を維持しているが、4ヶ月連続で前月対比でプラス幅が縮小。過去3ヶ月は前月対比で10ポイント以上の落ち込みが続いており、今月の落ち幅は17.7ポイントに加速。70～80台の高水準を維持していた半年前から急ブレーキが掛かっている。ハードデータも含めて景気減速を示唆する指標が増え、景気判断が下方屈折し始めている。
- 業種別の業況判断は、自動車と鉄鋼の落ち込みが先行してきたが、一般機械、電機、化学もマイナス圏に転落。世界的な景気減速懸念や貿易戦争への脅威が製造部門の業況悪化につながっている。他方、小売、サービス、通信など内需部門は全般に底堅く、金利の上昇抑制から建設が改善。
- 昨年来のドイツの景気減速は、年始の天候不順、年中には自動車の排ガス試験対応の遅れ、ライン川の水位低下による物流停滞や生産停止、最近では医薬品の不可解な下振れなど、特殊要因によって下振れしている面もある。今後の景気を占ううえで、好不況の分岐点に近づいているPMIなどのソフトデータが一段と低下するか、ここから切り返すかに注目が集まる。

■ドイツ：景気の現状・先行き判断



出所：ZEW

■ドイツ：ZEWの業種別景況感



出所：ZEW

■ドイツ企業景況感（季節調整済み）

	2018				2019											
	1Q	2Q	3Q	4Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
ZEW景況感（先行き）	14.4	-10.8	-16.3	-22.1	5.1	-8.2	-8.2	-16.1	-24.7	-13.7	-10.6	-24.7	-24.1	-17.5	-15.0	
現状指数	92.7	85.3	73.7	57.9	90.7	87.9	87.4	80.6	72.4	72.6	76.0	70.1	58.2	45.3	27.6	
Ifo景況感（総合）	104.5	102.5	103.2	-	103.8	102.5	102.7	102.3	101.9	104.0	103.8	102.9	102.0	101.0	-	
現状指数	108.4	106.4	106.4	-	107.5	106.3	106.8	106.0	105.7	106.8	106.7	106.2	105.5	104.7	-	
先行き指数	100.7	98.8	100.1	-	100.3	98.8	98.8	98.7	98.2	101.2	100.9	99.7	98.7	97.3	-	
PMI製造業指数	60.0	57.0	55.5	-	58.2	58.1	56.9	55.9	56.9	55.9	53.7	52.2	51.8	51.5	-	
サービス業指数	55.5	53.2	55.0	-	53.9	53.0	52.1	54.5	54.1	55.0	55.9	54.7	53.3	51.8	-	

出所：ZEW、Ifo、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

